

GREENERY & SMILES

吉見町勢女見

町制施行30周年記念

'02
Y
O
S
H
I
M
I

みんなで創る、
みどりと笑顔があふれるまち



みんなが創る、みどりと笑顔があふれるまちを目指して

二〇〇二年。

二十一世紀になって、これが最初の、

しかも町制施行三十周年を記念する町勢要覧です。

吉見町の魅力を再発見したい、

そしてそれを今世紀にも伝えていきたい。

この要覧を読んで、

そんな気持ちになっていただけたら幸いです。

さらに吉見町の二十世紀の歩みや、

二十一世紀の将来ビジョンも掲載しました。

吉見町の現在・過去・未来が分かる

町勢要覧です。

地勢

埼玉県のほぼ中央に位置し、南部は川島町、西部は東松山市、東部は鴻巣市と北本市、北部は吹上町と大里町に接する東西約7km、南北約8km、総面積三八・六三kmのまちです。都心から五十km圏にあり、東武東上線やJR高崎線開越自動車道などへ容易にアクセスできます。西部の丘陵部を除いては広く開けた平野部で、かつては、荒川、市野川などの氾濫による水害に悩まされましたが、昭和十三年にすべての堤防が完成した後は、肥沃な穀倉地帯となっています。西部の丘陵地帯は、豊立比企丘陵自然公園に指定されており、吉見百穴や八丁湖周辺に散在する黒岩横穴墓群などは、「古墳時代を代表する」貴重な史跡として注目されています。

沿革

その昔、吉見町一帯は横見郡と呼ばれていましたが、大政奉還や王政復古などの大改革を経て、明治二十一年の町村制施行によって東西南北の四方村に編成されました。そして同二十九年には比企郡に統合されて、横見郡という名はなくなりました。こうした経緯を経て、昭和二十八年に施行された町村合併促進法によって四方村が合併して、吉見村が昭和二十九年七月一日に誕生しました。そして吉見村は昭和四十七年十一月三日に町制を施行し、現在の吉見町が誕生しました。

吉見の産業は当初は農業、中でも稲作が中心となっていました。近年では昭和三十一年代初めから栽培を始めた「吉見いちご」が特産物として高い評価を受けています。また昭和三十年代の後半からは大規模なほ場整備や農村の近代化政策も進められるようになり、その一方で昭和四十五年に大規模工場の誘致や市街化区域の設定など都市化の第一歩を踏み出しました。

これに対応して、都市基盤施設の整備強化、荒川右岸流域下水道への加入、県広域第二水道の導入などが行われました。また、昭和六十年代に丘陵部住宅団地での住宅建設が急速に進む一方で、町では東部市街化区域の土地区画整理事業に着手し、都心からの五十km圏内という立地条件を生かして、町の近代化がいつそう進められています。

Geographical and Historical Features: Located at the center of Saitama Prefecture, Yoshimi covers 38.63 km² of open country with rolling hills in the west. The town is supported by rice farming and now promotes modernization in its industrial and urban infrastructure.

GREENERY & SMILES YOSHIMI

CONTENTS

特集 古代の香りが息づく吉見丘陵に歴史と自然を訪ねる
緑と歴史の回廊を行く 01

特集 町制施行30周年記念特集
町といっしょに30年 10

- 吉見「もの」語り.....12
- RIVERS TOWN YOSHIMI... 14
- SPORTS TOWN YOSHIMI...16
- EVENTS TOWN YOSHIMI...18

特集 新世紀の先見性は吉見町にある
21世紀のまちづくり 20
町長インタビュー～吉見町の新世紀を語る～22
将来ビジョン～第四次吉見町総合振興計画の概要～24

Report of GREENERY and SMILES Town
生活基盤...26 地域産業...28 健康・福祉...30 教育・文化...32 行政・議会...34

特集 ビジュアル版 **吉見町の20世紀 35**

吉見町ガイドマップ 40

吉見町民憲章

わたしたちは、みどり豊かな自然に恵まれ、由緒ある歴史と伝統はぐくまれた吉見町を愛し、より明るく住みよい町をつくるため、町民憲章を定めます。

- 一、自然を守り 環境をととのえ きれいな町にしよう
- 一、歴史を愛し 文化を育て 心ゆたかな町にしよう
- 一、産業を伸ばし 勤労を尊び 活力ある町にしよう
- 一、人権を尊重し 福祉をすすめ 住みよい町にしよう
- 一、スポーツを愛し 心身をきたえ 明るい町にしよう

Special Edition
Landscape of Green & Historical Town

古代の香りが息づく吉見丘陵に歴史と自然を訪ねる

緑と歴史の回廊を行く



古墳時代後期の横穴式群集墓としてあまりにも有名な吉見百穴。

四国八十八ヶ所霊場を模した岩室観音。

中世の山城として周辺に君臨した松山城跡。

吉見丘陵を歩くと、古代からの生活や文化の香りが

今もいきいきと感じられます。

The famous Yoshimi Hyakuana (100 holes) tombs dug into the side of a hill were constructed during the latter years of the tumulus period and the Iwamuro Kannon reminds visitors of the pilgrimage to the 88 sacred sites in Shikoku. Walking the hills of Yoshimi is a stroll through history and culture.



観光名所

全国的にも珍しい史跡である百穴は、町の代表的な観光名所でもあります。春は桜のほかにパンジーなどが咲いて、穏やかな陽気に誘われ、訪れた人ひとを、楽しませてくれます。

Famous tourist site.

The Yoshimi Hyakuana (100 holes) is a nationally renowned tourist site as well as the pride of our town. The area is also famous for its cherry blossoms and cosmos in the spring. Visitors are drawn to this site by pleasant weather and attractive scenery.

東松山から市野川を渡り、吉見町に入る
と見えてくるのが、国指定史跡の吉見
百穴。岩肌にボコボコと窓が開けられた
ような不思議な光景は、一度見たら、くっ
きりと脳裏に焼き付いてしまっほどの存
在感があります。

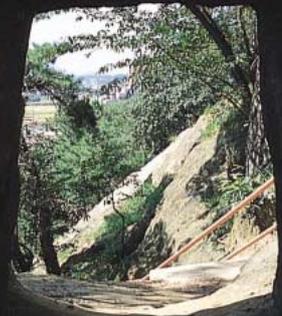
吉見百穴は、今から約千三百年前の古
墳時代終末期の横穴墓群であり、文献に
よると江戸時代の中ごろから、「不思議な
穴」として人々に興味を持たれていたよ
うです。

明治二十年、当時東京大学大学院生だっ
た坪井正五郎博士が発掘調査を行い、玉
類・金属器・土器類など多数の遺物が出
土しました。当初、坪井氏により、「百穴
は、先住民族の住居跡である」と言われ
ていましたが、その後、日本各地で調査
例・資料が増加し、その結果、吉見百穴
は古墳時代の横穴墓であることがわかり
ました。大正十二年には国指定史跡とな
り、現在二百十九個の穴が数えられます。

頂上に向かってつづく階段をのぼりなが
ら、一つひとつの穴を覗き込むと、しっか
りと丁寧に掘られた様子が観察できます。
家族や親しい人々のなきながらを葬った古
代の人々の悲しみや苦しみ、祈りといっ
たさまざまな感情がそのまま伝わってき

横穴の内部

すべてではありませんが、百穴の幾つかには実際に中に入ることができます。小さな古墳の石室のような内部は、夏でもひんやりとしていて、時間の重みを直接語りかけてくるかのようです。



Inside a tomb.

Visitors may go inside some of the 100 tombs carved into the slope of the hill. Inside a small tomb you will find a room made from boulders and, as a result, the tombs are quite cool in the summer. Visitors feel as if they have made direct contact with the history of the area.

コース

小高い丘の斜面に多くの口を開けている百穴には、いくつかのコースが整備されていて、丘の頂上までいろいろなルートで登ることができます。

Course.

A number of courses that take visitors among the tombs along the slopes of the low hills have been laid out. There are also a number of courses that lead to the top of the hill.



桜の名所

吉見には桜堤など花見の名所がいくつかありますが、百穴もその一つ。満開の桜の中にちらほら見える百穴からは、いっそう不思議な雰囲気が漂います。百穴の近くには市野川の桜並木もつづきます。

Cherry blossoms.

There are a number of popular flower viewing sites, including the Yoshimi Hyakuana and Sakuratsutsumi, in Yoshimi. A unique mystery surrounds the tombs when viewed from beneath the trees in full bloom. The blossoms near the Ichino River are also quite attractive.



不思議な穴として興味を抱かれ、
 吉見百穴を覗く。

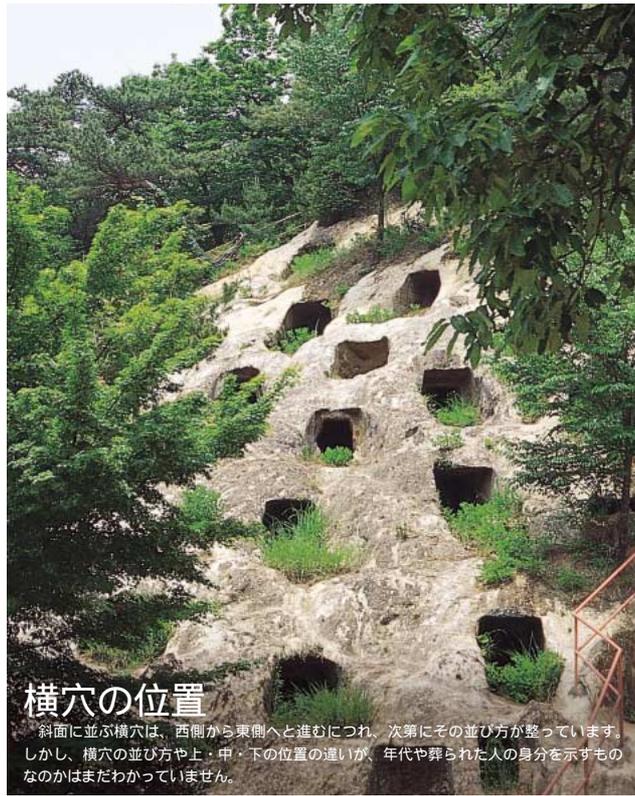


ヒカリゴケ

コケ類の一種で、一般的には中部地方以北の山地に生育し、光をうけると幻想的な緑色に輝くヒカリゴケ。いくつかの横穴には、この珍しいコケが生えていて、百穴のもう一つの名物になっています

Luminous Moss

This moss that glows in a number of the tombs can be found only in central and northern Japan. When struck by light, the moss seems to light up in mysterious shades of green. This is another popular attraction of the Yoshimi Hyakuana.



横穴の位置

斜面に並ぶ横穴は、西側から東側へと進むにつれ、次第にその並び方が整っています。しかし、横穴の並び方や上・中・下の位置の違いが、年代や葬られた人の身分を示すものなのかはまだわかりません。

Location of the holes.

The holes on the slopes run from west to east. But the layout of these holes dug into the side of the hill varies due to their proximity to the top of the hill. These differences seem to be related to the status of those buried in the tombs.



伝説

「天狗さまが掘った穴」「雷さまがあけた穴」「松山城の兵器庫」「コロポックル人（伝説上の人びと）の住居」など、昔からさまざまな伝説を生み出してきた百穴が、死者を埋葬した墓穴と判明したのは大正時代に入ってから。

A legend.

Over the years a number of these holes have developed legends of their own. Some tombs are known as the "Tengu's Hole", the "Hole of the Gods of Thunder and Lightning", the "Matsuyama Castle Arms Cache" and the "Home of the Koropokkuru (Elves)".

Special Edition
 Landscape of Green & Historical Town

吉見の百穴は、一年を通じて楽しめますが、特に春は、岩山を覆い尽くすように咲き誇る桜が見事で、多くの観光客でにぎわっています。

あるのは、植物分布上、極めて貴重とされ、昭和三年、国の天然記念物の指定を受けました。

吉見百穴のもう一つの見どころといわれるのが、ヒカリゴケです。最低部にある二つの横穴で、幻想的な緑色を放っています。ヒカリゴケは、山地に多く、関東平野に薄暗い中に入り、ひんやりとした空気に包まれ、奥まで続く通路を眺めていると、いにしえの時代にタイムスリップしてしまいそうになります。

また、ところどころに口を開ける巨大な洞穴は、戦時中に建設された地下軍需工場跡。薄暗い中に入り、ひんやりとした空気に包まれ、奥まで続く通路を眺めていると、いにしえの時代にタイムスリップしてしまいそうになります。



遠足

歴史と自然が直接体験できる百穴は、小学校の旅行や遠足にとって、絶好の目的地。近くは近隣の市町村から遠くは県外まで、多くの小学生たちが毎日のように訪れています。

Day trips.

Visitors can enjoy a first-hand experience with history and nature during their visit to the Yoshimi Hyakuana. Many elementary schools from neighboring municipalities include a visit to this site as an important part of their curriculum.



軍需工場跡

百穴のある丘はやわらかい岩でできているため、戦時中には洞窟が掘られて、その中に軍需工場が建設されました。洞窟は現在でも残されていて、その一部は自由に見学することができます。

Munitions Factory.

The Yoshimi Hyakuana is located on a hill composed of relatively soft boulders. For this reason, during WWII, caves were easily dug and a major underground munitions factory was established here. Some of the holes are open for inspection even today.

Yoshimi Hyakuana (100 holes) is a prefecturally designated historical site with 219 tombs over 1,300-year-old that have been carved into rocks. Climbing up the steps to the top, you can peek into the carefully carved tombs and imagine the prayers of ancient mourners. Gigantic caves are the remains of underground munitions plants built during WWII. Another local attraction is the luminous moss, a prefecturally designated natural treasure that glows in mysterious shades of green in two of the tombs.



安楽寺

坂東11番の札所として、古くから「吉見観音」の名で親しまれてきた安楽寺は、参詣客が後を絶たず、本堂をはじめ、三重塔、仁王門、仁王像など、多くの文化財があることも知られています。

Anraku-ji.

This temple is considered to be the “Bando No. 11” (among temples regularly visited by pilgrims) and is also referred to as the “Yoshimi Kannon”. Pilgrims can view a number of cultural assets as well as the main hall, the three-tiered pagoda, etc.

文化財は、その時代時代の人々が精一杯生きてきた証であり、何百年の時を経てもなお、人々の心をひきつけてやまない魅力に包まれています。先史時代から人々の暮らしが営まれてきた吉見には、国指定の史跡である吉見百穴以外にも貴重な文化財がたくさん残されています。

吉見丘陵の東部、八丁湖に臨んだ山の斜面に広がる黒岩横穴墓群は、吉見百穴と同じころつくられた横穴墓で、百穴谷、首切り谷、地獄谷、茶臼谷、神代谷の五カ所に分布しています。この横穴墓群は、明治十年、郷土史家の根岸武香氏をはじめとした地元有志によって発掘調査が行われました。



安楽寺「三重塔」

高さ約24m。基礎は設けられず、心柱は初重天井上の梁を支えられています。屋根は柿葺でしたが、現在は銅板葺、ハランスのどれた、どしりと安定感のある美しい姿が印象的です。

Anraku-ji (3-tiered pagoda).

This pagoda has a height of 24 m. Instead of a typical foundation, it is supported by pillars that reach all the way up to the top of the structure. The original tiled roof has been replaced with copper plates. It is especially known for the dignity of its imposing structure.



安楽寺[本堂]

300年以上前に再建された典型的な密教本堂です。屋根はもとは柿葺でしたが、大正12年の改修の際、銅瓦葺きに改められました。

Anraku-ji (Hondo).

This traditional temple hall underwent reconstruction over 300 years ago. It is built in the tradition of esoteric Buddhism. Originally it was covered by a thatched roof. This was replaced with copper tiles during renovations made in 1923.



安楽寺[仁王門]

境内南側、木立に囲まれた石段の上に建っています。三間一戸の八脚門で、屋根は瓦葺でしたが、現在は銅板葺に改められました。

Anraku-ji (Nio-mon).

This gate is located among the trees near a stone path on the south side of the grounds. It is a traditional Sanma-ito 8-legged gate and the original tiled roof has been replaced with copper plates.

古代の香りが息づく吉見丘陵に歴史と自然を訪ねる

吉見丘陵 には、 古代より 受け継がれてきた 歴史が 今も 息づく



和名埴輪窯跡群

和名沼の北川斜面一帯は、古くから多くの埴輪が出土し、昭和49年に行われた発掘調査では、埴輪を焼いた登り窯が4基発見されました。同62年にはさらに1基見つかり、このほかにもまだ多くの登り窯があると推定されています。

Wana Hanyu Kilns.

These kilns have been found along a belt of land on the slopes just above Lake Wana. A large number of Hanyu earthen warriors have been unearthed at this site and in 1974 researchers discovered 4 ascending kilns. Another kiln was discovered in 1987.

黒岩横穴墓群

そのほとんどは未発掘で、総数は500基以上にのぼると推定されます。吉見百穴をはるかに上回る規模で、保存状態も極めて良好と思われる。

Kuroiwa Oketsu Tombs.

Most of these tombs dug into the side of a mountain have yet to be excavated. It has been estimated that there are over 500 tombs in this group. This would make it much larger than the number of tombs found within the Yoshimi Hyakuana.



Special Edition Landscape of Green & Historical Town

このとき、十六基の横穴墓が発掘されたため、通称「十六穴」と呼ばれるようになったそうです。現在もなお、横穴墓の大半は未発掘であり、その総数は五百基以上にのぼると推定されています。

さらに、古墳時代の遺産として、茶臼山古墳やかぶと塚古墳、山ノ根古墳、久米田古墳群、古墳の周りを飾る埴輪を焼いていた窯跡も見つかっています。和名沼北側斜面一体に広がる和名埴輪窯跡群は、これまでの発掘調査で、五基の登り窯が発見されており、埼玉県内でも有数の埴輪生産の窯跡群であったことがわかっています。吉見丘陵の中腹には、坂東十一番札所として名高い吉見観音「安楽寺」があります。安楽寺は、今から千二百年ほど前に行基菩薩が創建、後に坂上田村麻呂によって吉見領の総鎮守となりました。しかしながら十六世紀後半の戦国時代、松山城をめぐる相次ぐ合戦によって全てを焼失し、江戸時代に入って本堂・三重塔などが再建されました。

本堂は、禅宗様に和様を交えた典型的な五間堂の平面を持つ密教本堂で、各部に施された華麗な色彩文様とともに江戸時代前期の様式をあらわしています。

また、境内入口に面した仁王門、両側に安置されている二体の仁王像は、いずれも江戸中期の元禄八〜十五年（一六九五〜一七〇二）に造られたものです。三重塔は、安楽寺に現存する最も古い建造物で、今から約三百年前の寛永年間（一六二四〜一七〇四）に再建されました。塔建築の少ない関東において、江戸初期の様式をよく伝える貴重な建造物と言えます。

安楽寺【仁王像】

江戸時代中頃の元禄8〜15年（1695〜1702）に造立。門に向かって右にある口を大きく開いているのが「阿像」、左にある口を一字に閉じているのが「吽像」です。

Anraku-ji (Nio statue).

These two Deva Kings, guardian gods of the Anraku-ji gate, were made between 1695 and 1702. The one on the right side of the gate is called the "A-zo", and the one on the left is called the "Un-zo" ("aun" meaning the "harmony of preparedness" in Japanese).



The Kuroiwa Group of Cavernous Tombs, on the slopes facing Lake Haccho, is as old as the Yoshimi Hyakuana. It is believed that most of a total of more than 500 tombs have yet to be excavated. There are also ancient mounds and ruins of kilns used to bake clay figurines for decorating the mounds. Anraku-ji temple, founded nearly 1,200 years ago is located halfway up the hills of Yoshimi. The main building and a 3-storied pagoda were rebuilt after being destroyed by fires during a series of wars in the 16th century.



岩室観音【石仏】

堂宇の横の洞窟には、八十八体の石仏が並んでいますが、これは四国八十八カ寺の本尊を模したものです。造立年月日や施主名とともに、一番から八十八番までの番号と寺院名が刻まれています。

Iwamuro Kannon (stone Buddhas).

In one of the caves near the eaves of the hall, there are 88 statues of Buddha. These are copies of the gods that reside in the Hachijuhachi-ka-ji Temple in Shikoku. The dates and the names of the sculptors has been carved on each statue.

市野川に囲まれた松山城は比企丘陵の東端に築かれた、北武蔵地方屈指の平山城です。戦国時代には数多くの攻防戦が行われましたが、なかでも、天文年間から永禄年間に上杉、武田、北条の各氏が繰り広げた激戦によって、中世史にその名を残しています。城跡は、当時の姿を良好にとどめており、本丸、二の丸、春日丸、三の丸が一直線に並んでいるのが見てとれるほか、多くの曲輪や平場、兵糧倉庫や物見櫓跡なども残っています。

松山城跡の北端にあるのが岩室観音です。龍性院の境外仏堂であり、また、松山城の裏門の跡でもあります。創建は、弘仁年間（八一〇〜八二四年）に弘法大師が岩屋を選び、高さ一尺二寸の観音像を彫刻して納めたと伝えられています。



岩室観音

百八の近くで、木立に囲まれた岩室観音の堂宇は、京都の清水寺と同じ懸造り様式、江戸時代のものとしては県内でも珍しく、町の文化財として指定されています。

Iwamuro Kannon.

Near the Yoshimi Hyakuana, the eaves of the Iwamuro Goddess of Mercy surrounded by trees are a copy from a similar setting found at the Kiyomizu Temple in Kyoto. This municipal cultural asset is said to have been constructed during the Edo period.



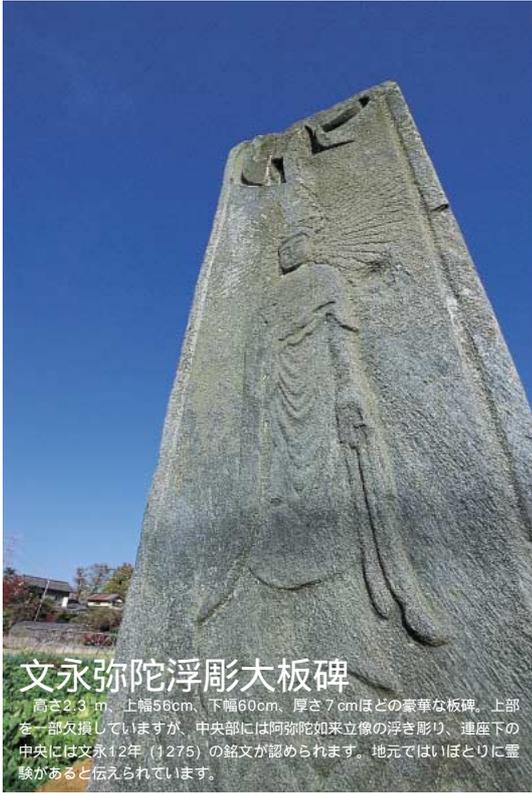
息障院

源範頼は頼朝の弟。頼朝が鎌倉に勢力を得るとこの地を領し、館を中心とするこの付近は御所と呼ばれるようになったと伝えられています。息障院がこの地に移ったのは、室町時代と言われています。

Sokucho-in.

Minamoto no Noriyori is the younger brother of Yoritomo. When Yoritomo assumed command of Kamakura, he established a residence in this area. The Sokucho-in was relocated to its current location, near the site of this residence, during the Muromachi Era.

貴重な文化財の数々が、往時の人々の暮らしを細かに語りかける。



文永弥陀浮彫大板碑

高さ2.3 m、上幅56cm、下幅60cm、厚さ7cmほどの豪華な板碑。上部を一部欠損していますが、中央部には阿弥陀如来立像の浮き彫り、蓮座下の中央には文永12年（1275）の銘文が認められます。地元ではいぼとりに霊験があると伝えられています。

Bun'ei Mida Ukibori Oita monument.

This magnificent stone plate is 2.3 m tall, 7 cm thick and has a width between 56 and 60 cm. While the carving in the upper portion has been damaged, the relief of the Amida Nyorai (Buddha) in the center can still be seen (circa. 1275).



松山城跡

城の歴史は古く、一説には古代にまでさかのぼると言われますが、一般的には室町時代初期の応永年間（1394～1428）の築城説が有力。慶長6年（1601）に、最後の城主が浜松に転封され廃城となりました。

Matsuyama Castle site.

The history of this castle is said to go back over 600 years. It has been determined that it was erected between 1394 and 1428. The final castle lord, Lord Hamamatsu, left the castle around the year 1601.

Special Edition
Landscape of Green & Historical Town

代々松山城主が信仰・護持していましたが、天正十八（一五九〇）年の松山城落城のとき、建物のすべてが焼失。しかしながら、不思議と観音像だけは、岩窟内に残ったと言われています。現在のお堂は、寛文年間（一六六一～一六七三年）に再建したもので、京都の清水寺と同様の懸造り様式です。境内には、四国八十八カ所の弘法大師の霊場の本尊を模した八十八体の石仏が納められており、これらの仏像を拜めば、居ながらにして八十八の礼所を巡礼したのと同じ利益があるとされ、言われ、多くの信仰客が訪れます。

一方、文化財の宝庫として知られるのが、息障院です。御所の地名が残るこの辺り一帯は、源範頼の居館跡と伝えられ、今でも、創建時に作られた堀の一部などが残ります。地蔵堂は、町内最古の建造物、本尊である不動明王坐像は、ヒノキによる寄木造りで、繊細な衣紋や比較的小さな形相などを特徴とし、いずれも県指定の文化財となっています。息障院には、そのほかにも、町指定の絹本着色両界曼荼羅や絹本着色涅槃図、仏説大乘造像功德経などが所蔵されています。

大串市内の金蔵院には、県指定の史跡、金蔵院宝篋印塔が二基あります。平成十一年に修復工事を行った際、大串次郎重親の墓と伝えられる宝篋印塔の下から中国産の白磁四耳壺（十二世紀初頭）と渥美半島産の大甕（十二世紀後半）が出土しました。白磁四耳壺は全国的に出土例が極めて少なく、大変貴重な資料です。現在、白磁四耳壺と大甕は一括して県指定の考古資料となっています。



金蔵院宝篋印塔

宝篋印塔は密教系の石造塔。金蔵院には2基の宝篋印塔があり、右写真の塔には応安6年（1373）、左写真のものには永和2年（1376）の銘が刻まれ、永和の塔は大串次郎重親の墓と伝えられています。

Konzo-in Hokyoin-to.

The Hokyoin pagoda is made of stone and serves as an icon of esoteric Buddhism. There are two of these pagodas on the grounds of Konzo-in. The one in the photo on the right was completed in 1373 and the other on the left in 1376.

Matsuyama Castle was the scene of fierce battles among powerful medieval clans. The ruins include a series of enclosures, a weapons warehouse and a watchtower. At the northern end of the ruins is a statue of Iwamuro Kannon from the early 9th century. Sokusho-in Temple is known for its collection of cultural assets including the Jizo Hall, the oldest building in Yoshimi, and the statue of a seated Fudomyoo. A rare 13th-century Chinese pot was found at the Konzo-in Temple few years ago.

Special Edition
Landscape of Green & Historical Town

水と緑に満ちた風光明媚な丘陵を歩く

吉見町は、県立比企丘陵自然公園の一角に位置し、豊かな自然が季節の移り変わりを告げてくれます。

そんな吉見の地では、江戸時代中期より水田開発が始まり、町内には、数多くのため池が造られました。これらのため池は、今では静かな山並み、のどかな田園風景など、周辺環境にマッチした町の景色として



天神沼

吉見にある多くのため池の一つで、沼を囲む木立や輝く水面が、近隣に暮らす人びとの憩いの場となっています。

Tenjin-numa.
This is one of the many small reservoirs located throughout Yoshimi. The trees surrounding the pond and the glittering surface of the water help to make this area especially pleasant for the residents who live nearby.



八丁湖

ヘラブナやコイなど多くの釣り人が集まることで知られる八丁湖。その付近には遊歩道も整備されていて、近くにある「黒岩横穴墓群」へも気軽にハイキングが楽しめます。

Lake Hacho.

This small lake is known to be a Mecca for anglers looking to catch small heru carp and other carp. There is a walking path in the vicinity and visitors can also enjoy a hiking course to the Kuroiwa Oketsu tombs.

古代の香りが息づく吉見丘陵に歴史と自然を訪ねる

人々の生活に根付いています。

吉見百六のすぐ近くに位置する大沼は、百六湖とも言われ、四季を通じてさまざまな楽しみ方ができる懐の広い湖。紅葉のシーズンには、もとより、冬のバードウォッチングは有名です。多くのカモが飛来し、水辺で遊ぶ姿は、かわいらしく思わず顔がほころんでしまいます。双眼鏡やカメラを片手に水鳥たちの姿を観察する愛好者が、多く集まる人気のスポットです。

雑木林などありのままの自然が残る和名沼周辺は、野鳥や水生植物が生息する貴重な場所です。自然が大好きな町の人たちによって、自然環境保続地区「風の杜」として整備され、自然観察や園内を散策する家族連れの姿も多くなりました。

また、武蔵野の風情を今に残す八丁湖と黒岩横穴墓群、桜やツツジなど花の名所としてにぎわうほか、八丁湖では、ヘラブナやコイ釣りが楽しめるなど、アウトドアにもぴったりのスポットです。

八丁湖から北約1kmの高台にある岩山が、「ポンポン山」です。武蔵地方最古の高負彦根神社の境内裏にあり、岩山の中腹を踏みたたくとポンポンと音がすることから、この愛称がつけられました。晴れた日には、赤城や男体、筑波の山々が遠望できます。

吉見町では、こうしたスポットを吉見八景として選定しています。町民自らが、ふるさとのよさを見直し、後世に伝えていきたいと思ったからです。八景は、ふるさと歩道によって結ばれ、散策に最適なコースとして整備されています。



ふるさと歩道

吉見百六や後援などの観光名所、黒岩横穴墓群や安楽寺、源氏頼朝墓などの歴史的な名所、ポンポン山や八丁湖、大沼、天神沼などの豊かな自然。ふるさと歩道は、楽しみながら吉見が満喫できるハイキングコースです。

Furusato sidewalk.
A stroll along this sidewalk will take you through Yoshimi and to many of our tourist sites such as the Yoshimi Hyakuana, Sakura Tsutsumi, the Kuroiwa Oketsu Tombs, the remains of the Minato no Noriyori residence, Popon-yama, out lakes and ponds, etc.



大沼

別名、百六湖。秋の紅葉も美しいですが、なんととっても冬のバードウォッチングが有名。多くのカモが飛来し、水辺でたわむれる姿は、思わず気持ちをなごませてくれます。

Onuma.

This pond, also known as Lake Hyakuana, is especially beautiful in the autumn months when the leaves change color. The surrounding area is also famous among bird-watchers in the winter when many wild ducks fly here on their journey to the south.



和名沼

雑木林を自然のままに残した「風の杜」に囲まれていて、ハイキングを楽しむ人や、湖面に釣り糸をたれる人の姿が多く見られます。

Wana-numa.

Lake Wana is surrounded by a growth of trees left in their natural setting. This area is called "Kaze no mori" and it is especially popular among hikers and fisherman.

Many of the irrigation ponds that provide water for paddy fields were established in Yoshimi hundreds of years ago, and now they provide us with beautiful scenery. Lake Onuma, also called Hyakuana-ko, is known as an excellent site for bird watching in winter. Lake Wana and the surrounding thickets are home to many species of wild fowl and aquatic plants. From Mt. Ponpon, a rocky hill at the back of the Takao Hikone Shrine, you can enjoy a distant view of the Akagi, Nantai and Tsukuba mountain ranges.



ポンポン山

中腹を踏むと、ポンポンと音がすることから名づけられた、高さ20m余りの小さな岩山。関東平野の端にあるので、吉見の町並みはもちろんのこと、赤城や男体、筑波などの名山の雄姿が見渡せます。

Ponpon-yama.

The onomatopoeic name of this mountain comes from the fact that if you walk along halfway up the mountain, you can hear a sound that sounds something like "pon-pon". While the mountain itself is quite low (20 m), it offers a panoramic view of distant mountains.

Takehiko
Arai
新井武彦

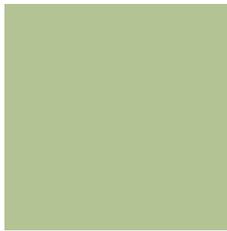
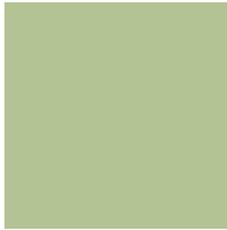
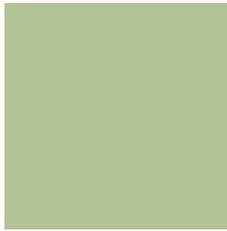
公務員

好きなのは、ほのぼのしたところ。

子どもにも伝えていきたい。

吉見を離れたのは、大学のときに3年ほど。たった3年でしたけれど、戻ってきたときには、やはり落ち着くな、と感じました。吉見の、ほのぼのしたところが、好きですね。近所の人たちは道で会えば、声をかけてくれるし、「子供は大きくなった？」なんて尋ねてくれます。ただちょっと、交通機関は不便になって気もするけれど、クルマで少し走れば街中にはすぐ出られるんだし、その分、町には自然が残っているのだから、そう文句も言ってもらえませんよね（笑）。吉見で一番好きな場所と言ったら、桜堤かな。花の季節には、桜と菜の花がいっせいに咲いて、堤を花で埋めつくしてしまって、とてもきれいになります。将来的には、今まで言ったような、吉見のいいところを、子どもに残せていけたらいいなって、思ってます。

I am especially fond of the warmth of our town. I left town when I entered college, and I was gone for three years. When I came back, the first thing that struck me was the human warmth of our town. People greet each other when they pass on the streets. Yeah, it may be a little inconvenient at times, but nature and the mood of the town more than makes up for that.



町制施行30周年記念特集

町といっしょに30年。
私たちは町制施行の年に
生まれました。

昭和47年、吉見は村から町へ。
町と同じ年で、「吉見が好き」とおっしゃる方々が、
それぞれの思いを語ってくださいました。



Special Edition
30 Year
Anniversary

We've lived here for 30 years. We were born in the year when Yoshimi became a town.

The town of Yoshimi and the residents who Speak of their love for this town, Were all born in 1972.

Chigusa
Kimura

木村千草

福祉施設勤務

ずいぶん星がよく見えるねって、東京の友だちが言ってくれます。

ここ、荒川の土手に立つと、吉見の町がよく見えるんです。ときどき、富士山が顔を見せてくれることもあったりして。家から近いので、散歩に来ることが多いんですが、冬はとくに空気が澄んでいて、景色がくっきりと見えるから、ここを歩くのが楽しみです。東京の友だちも、私の家に遊びに来たりすると、ずいぶん星がよく見えるね、なんて言ってくれます(笑)。暮らすには、吉見は緑が多いし、静かで、とってもいいところですね。でも最近、お年寄りの介護施設に勤めているせいもあって、思うこともあるんです。もう少し吉見がお年寄りにやさしい町になってくれたらいいなって。道路やトイレの整備、それに近頃は核家族化が進んでいますから、お年寄り子どもたちがふれあえるような場所なんかがあれば、もっといい町になるのになって。

My friends who come to visit from Tokyo always comment on the number of stars they can see in Yoshimi. From here, on the riverbank, we can enjoy a great view of Yoshimi in its entire natural splendor, and sometimes we can even see Mt. Fuji. The river is close to my home and I enjoy walking along the banks, especially in the winter when the air is so clear.

あたりが真っ暗なのが、かえって落ち着いたりするんです。

会社員

Miki
Takuma
宅間美貴

吉見には、この3月に戻ってきたばかりなんです。会社が東京駅の近くなので、これまでの4、5年は、東京で暮らしていました。今は、クルマと電車を使って東京まで通っています。吉見ののんびりしたところが好きですね。自然が多くて、まわりの人たちは知り合いばかり、近所の人からもらった花の苗や種を植えたりして。会社から帰ってきたときなんか、あたりが真っ暗なのが、かえって落ち着いたりするんです(笑)。この町で好きなところっていうと、糠田橋。でも、もしかすると、吉見じゃないかな(笑)。通勤で毎日渡るのですけれど、朝日を浴びた荒川が輝いていたりして、とってもきれいなんです。町に望むことといたら、小説家の五木寛之さんなんかをお呼びして、講演会とかシンポジウムを開いてくれたらいいなって思います。

At night, it's so dark sometimes that you can hardly see anything, but there's a unique calmness in all this darkness. I just returned to Yoshimi last month after 5 years in Tokyo. I still commute by car and train, but I like the pace of life here. We're surrounded by nature and everyone seems to be your friend. It's dark when I get home from work but it seems to welcome me home.

友だちがいっぱいいるのが、なんとっても、魅力かな。

会社員

Junshi
Sekine
関根順志

吉見は、住むにはいいところですよ、緑はいっぱいあるし。でも、オレの場合は、なんとっても、友だちがいっぱいいる、というのが吉見の魅力かな。もう10年くらいづけていると思うんですけど、友だちといっしょに「やんちゃ坊主」という、野球チームをやっているんです。はじめは10人くらいしかいなかったけれど、今は15人くらいは入っているかな。月に2回くらい、荒川の河川敷のグラウンドに集まっては、練習してますね。練習が終わると、5、6人のいつものメンバーで、東松山のいつもの店に行っては、打ち上げをやるんです(笑)。だいたい話すことと言ったら、昔話とか、近況とか、野球の話って相場が決まっていますけど、友だちとバカ言い合っていると、あっという間に時間が過ぎてしまいますよね。

Having lots of friends makes life here especially rewarding. The "Yancha-bozu" baseball team has been together for over years now. Fifteen of us get together twice a month to practice. This is usually followed by a trip into Higashi Matsuyama for a "night on the town". We talk about all sorts of things and we always have a pretty good time together.

米 「比企の穀倉」と呼ばれる、肥沃な大地。

そのほとんどが広々とした平地で、西部には木々の生い茂る緑豊かな山々も連なるといって、美しい自然に恵まれた吉見。この地には、古くから大地の恵みを受けつづけ、「比企の穀倉」とさえ呼ばれるほどの、豊かな田園風景が広がっています。ときには水害に見舞われながらも、荒川と市野川にはさまれた、この遙かな田園地帯は、人びとに実りの喜びを与えてくれるとともに、その心には、訪れる四季折々を鮮やかに映し、自然にふれる喜びを感じさせてくれます。そんな田園で育つのは、コシヒカリやキヌヒカリ。さわやかな風が吹き抜ける田んぼで、太陽の光をいっぱい浴びながら実った米は、にぎやかな食卓の主角として、その存在は欠かすことができません。



Nature has seen fit to bless the earth in Yoshimi. This fertile soil is especially appropriate for growing koshihikari and kinu-hikari rice and is one of the reasons this region is affectionately referred to as the Hiki Prairie.

県内有数の生産量を誇る、吉見名物。

いちご



Greenhouse strawberries became a major crop in Yoshimi during the late 1950s. Since that time Tochtotome strawberries that thrive in our sandy soil, have become famous for their natural sweetness.

吉見では昭和三十年代の半ばから、いちごのハウスカットが始まりました。当初は「埼玉ダナー」などの品種が多く植えられましたが、現在では甘さがひときわみに広がる「栃おとめ」や「女峰」が主流の品種。荒川と市野川に挟まれた肥沃な土地は、いちごの生育には最適で、県内でも有数の生産量を誇っています。収穫は十二月から四月くらいまでがシーズンで、とくに町の南東部あたりでの生産が盛んです。県道・東松山桶川線の沿線は、多くのいちご直売店が並びます。また、町の農産物直売所でも、いちごは一番の人気商品。朝摘みの新鮮ないちごを求めて、地元はもろろん、近隣の市町村からも多くの人びとが買い物に訪れます。

「もの」をテーマに、吉見の歴史や名物を紹介します。

古代の幹線道路「東山道？」 を発見。



The archaeological excavation site known as the “Tosando” is considered to hold a treasure of historical assets. The site was originally an administrative district and a hub on a major traffic artery during the Nara period.

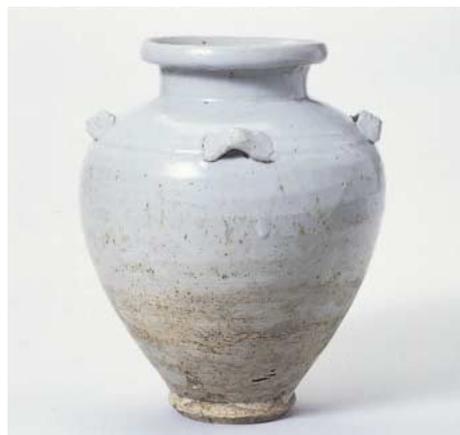
平成十三年、県営ほ場整備事業に先立ち、西吉見条里遺跡の発掘調査が行われました。その結果、古墳時代前期の大規模な用水路などの遺構のほか、木製品や土器などが数多く見つかりましたが、中でも「東山道」と推測される遺構の発見は注目すべきものとなりました。「東山道」は、奈良時代の行政区画であると同時に、幹線道路としての役割を果たし、主に特定の任務をもった役人などが往来。発見された遺構には、葦あしや木の皮を敷き、その上に三十cm以上の厚さの山砂利を敷きつめて造った路盤や、道の両側に路肩を補強するために打った一五〇cm以上の杭などが残っていて、当時の技術の高さと大規模な土木工事を確認できる、全国的にも貴重な発見となりました。

(推定)

東山道

塔の下から発見された、 美しい白い壺。

白磁四耳壺



In 1999, a restoration project at the Konzo Temple in Okushi led to the discovery of a 4-handled urn made in China during the 13th century and a large vat made during the 12th century in a kiln located on the Atsumi Peninsula in Aichi.

平成十一年、大串にある金蔵院宝篋印塔の保存修理を行っていたところ、「二基あるうちの一つ、伝大串次郎重親塔の下から中国製の壺と愛知県渥美半島産の大甕が出土しました。壺は、白い素地に透明のうわぐすりを施し高温で焼いた白磁で、肩の周囲には四つの小さな把手が付いた、白磁四耳壺と呼ばれるもの。十三世紀の前半に中国で造られました。出土数は全国的に極めて少なく、県内では二例目です。一方、甕は、出土したときには割れた状態でしたが、破片を復元してみると高さ五八・四cm、最大幅六七・九cm、口径四四cmにもなる巨大なもので、十二世紀の後半に渥美半島の窯で造られました。この壺と甕は、平成十三年に県指定有形文化財になりました。

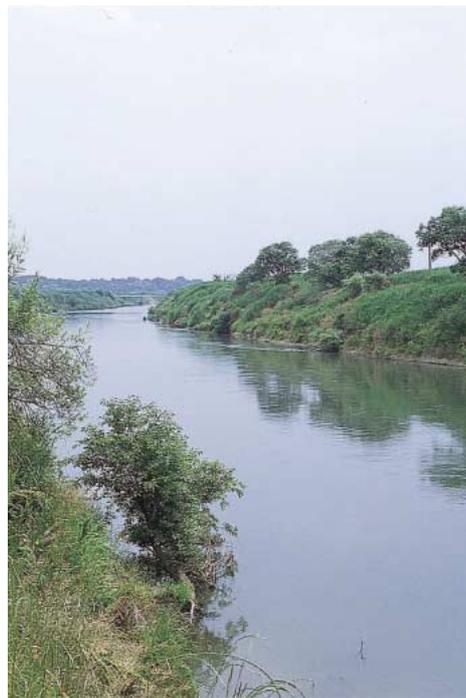
祖先から受け継がれてきた 私たちの生活は、 川との闘いから生まれました。

町の東西の境界に荒川と市野川が流れる吉見町。

古来よりその潤沢な川の流れば数々の氾濫を繰り返り広げてきました。

しかし、その一方で肥沃な大地を生み出し、まちの農業の発展に寄与してきました。

吉見町の歴史は川と共に流れてきたと言っても過言ではありません。



鳥や動物の楽園

A paradise for wild fowl and animals

荒川の周辺は多くの草木が繁茂して、鳥や小動物の楽園になっています。たとえ姿は見えなくても、小鳥たちのさえずりは、川辺のいたるところで聞くことができます。

広大な河川敷 A broad river bed

荒川の河川敷は広々としていて、野性の動植物たちがいきいきと暮らしているほか、総合運動公園は河川敷を利用して造られました。



市野川の桜並木

Rows of cherry trees along the Ichino River

百穴の近くを流れる市野川の土手には桜並木がつついていて、百穴の桜もいっしょに楽しめる。春には、桜とともに花見の季節には屋台なども出て、各地から大勢の人びとが訪れます。

桜堤 Sakura tsutsumi

ふるさと歩道の一部となっている桜堤には、1.8kmにもわたって桜が植えられています。春には、桜とともに葉の花が満開になり、花に埋め尽くされた美しさは言葉で表現しきれないほど。

悠久のときをなぞるようにゆったりと流れる荒川と市野川。吉見町は、今では、大田堤に守られた自然美あふれる穏やかな地ですが、かつては、河川の氾濫による洪水に人々は大いに悩まされていました。吉見町の歴史は、水害との闘いの歴史でもあったのです。

沖積原に形成された自然堤防状の段丘微高地帯で生活の基礎を築いた先人たちが、荒川は肥沃な土壌をもたらす恵みの川でした。しかし、暴力的な面もあり、開拓しては洪水によって破壊され、また再生するという歴史の繰り返しでした。人々は、各家ごとに屋敷地の土盛りと水塚を築き、片舟を備えるなど、いつ川が氾濫するが、不安な日々を過ごしていたと言います。

そうした一方で、寛永の大改修によって、

RIVERS

Until watercourses were altered and large-scale banks were built several decades ago, disastrous flooding along the Arakawa and Ichino Rivers caused much pain and took many lives. Yet these floods were also responsible for our rich and fertile soil. Our history is entwined with these rivers.

TOWN YOSHIMI

昔ながらの橋

Bridge over the Ichino River

市野川大橋の近くには、昔ながらの小さな橋が残っていて、釣り人や地元の人たちが多く利用しています。渡ってみると、数十年前にタイムスリップしたような気持ちになってしまいます。

荒川

Ara River

名前のとおり、台風のときなどには大暴れをする荒川ですが、普段の流れは穏やかそのもの。荒川の自然の恵みを愛する釣り人たちの姿を、あちこちで目にすることができます。



荒川舟運という新しい産業が生み出され、利根川、江戸川とともに一大消費地である江戸に向けて、物資の大量輸送を担うことになりました。河岸場が設けられた五反田には多くの商人が軒を連ねるなど、荒川舟運は大いに繁栄したようです。

昭和十六年、水害に苦しんだ吉見の人々の生活を一新した荒川の改修工事が竣工しました。川の流路自体の移動を含めた大幅な改修工事であったため荒川舟運はやむなく廃止となりましたが、旧荒川の流路にあった久保田新田や蓮沼新田は、堤内地になり三十haほどが絶好の耕作地として生まれ変わりました。さらに、河川敷には新たに総合運動公園やゴルフ場が新設され、今では、四季を通じて多くの人たちに利用されています。

荒川同様、度重なる水害で多くの被害を住民にもたらした市野川でも改修工事が行われ、大きく変貌しました。堤防上には桜並木やふるさと歩道ができ、今では、すっかり人々の憩いの場として親しまれています。これからの吉見の歩むべき道を思うとき、古来より人々の生活に関わってきた、この二つの川とのつながりを振り返ることで、未来への指針がみえてくるのかもれません。



スポーツで汗を流すと人は自然に笑顔になります。
それが人びとや街に賑わいをもたらすのではないのでしょうか。
吉見町には、数々の充実したスポーツ施設があります。
そんな吉見町にスポーツの風景をドキュメントしてみました。

サイクリングロード Cycling road

さいたま市の秋ヶ瀬公園から滑川町の森林公園まではサイクリングロードが整備されています。吉見では荒川の土手や桜堤などを通して、休日ともなると多くの自転車が走り抜けていきます。



吉見ゴルフ場 Yoshimi Golf Course

荒川右岸の河川敷にある広大なゴルフ場。全体的に高低差が少なく、初心者から上級者までが楽しめるコースが揃っています。

スポーツは 笑顔と賑わいを 生み出します。

SPORTS

TOWN YOSHIMI

Yoshimi's variety of sports and recreation facilities includes the Cycling Road along riverbanks, the Yoshimi General Sports Park and baseball ground, 26 tennis courts and a multi-purpose space. These facilities encourage good health and enhance communication and friendship.



陸上競技場 Athletics Ground

ふれあい広場の陸上競技場には本格的な400mトラックがあり、ほかに点字ブロックを施したカラー舗装で、1周約1kmのジョギングコースも整備されています。



海洋センター Marine Center

海洋センターは子どもたちに大人気。夏休みともなると毎日多くの子どもたちが訪れて、水遊びや水泳を元気にいっばいに楽しむ姿が見られます。

サッカーグラウンド Soccer Ground

ふれあい広場にある陸上競技場のインフィールドは、芝生が植えられているのでサッカーグラウンドとしても利用でき、シーズンともなると、サッカーを楽しむ若者や子どもたちでにぎわいます。

テニスコート Tennis courts
荒川の河川敷に広がる総合運動公園には26面ものテニスコートが整備されていて、休日には近隣の市町村から多くのプレーヤーが集まります。



ふれあい広場 Fureai Plaza

ふれあい広場には陸上競技場、多目的グラウンド、ピクニック広場、中央広場、テニスコートなどがあり、毎年秋に開催される町民体育祭もここで行われます。



天気の良い日は、絶好のサイクリング日和。思わず、自転車に乗って町内を走りまわってみたくありません。

荒川と市野川に囲まれた吉見町には、大きな堤防があり、そこにはサイクリングロードが整備されています。さいたま市の秋ヶ瀬公園と滑川町の森林公園を結ぶコースで、心地良い風を感じながら走るのには格別です。

なかでも、春は、サイクリングロード沿いに植えられた桜並木が満開となり、えも言われぬほどの美しさ。菜の花が、まるで黄色いじゅうたんを敷き詰めたように周囲を彩ります。

桜堤を北へ向かうと、見えてくるのが、吉見総合運動公園。荒川の河川敷を利用した広い敷地には、野球場やテニスコート、多目的広場などが整備され、あらゆるスポーツが楽しめます。二十六面あるテニスコートでは、大規模な大会が開かれることもしばしば。さらに進むと、吉見ゴルフ場があり、毎年、町民ゴルフ大会が開催されています。

みんなのレクリエーション・スポーツ空間として、多くの町民に活用されているのが、「ふれあい広場」です。四百mトラックをもつ陸上競技場や多目的グラウンド、砂入り人工芝のテニスコートといった本格的なスポーツ施設と、軽スポーツや各種イベントに利用できるピクニック広場などが設置されており、だれもが気軽に楽しく過ごせます。

また、隣接する町民体育館は、あらゆる室内スポーツに対応できるアリーナやトレーニングルームなどがあり、生涯スポーツを推進しています。プールのある海洋センターも、ここに隣接しています。

スポーツを楽しむ人々が、仲間とともに安らぎのひとときを過ごすのが、八丁湖湖畔にある勤労青少年フレンドシップハイツ。比企丘陵の自然の中にあり環境に恵まれています。

このように、町内をまわってみると、健康増進を促すためのスポーツ・レクリエーション施設が充実していることに気づきます。町民の体力・健康づくりに役立つとともに、出会い・ふれあいの場であり、人々が健やかに生きるための活力源でもあるのです。

まちに賑わいと活力を創り出す イベントをドキュメントしました。



テレビや映画では味わえない感動と興奮。

予期せぬハプニングや展開の面白さ。

参加する人も、見に来た人も、ボランティアの人も心の底から楽しめる。

吉見町の四季を彩る新旧の「まつり」は、まちを元気にする源と言えるでしょう。



久保田の天王さま
Kubota Tenno-sama Festival

毎年7月18日、久保田の八坂神社の周辺では、地元の人びとの手による夏祭りが行われます。天王さまと呼ばれるこの祭りは、津島天王系で、天保3年(1832)に勧請して以来つづいていると言われています。

江和井の天王さま
Ewai Tenno-sama Festival

地元の人たちを中心に、大勢の子どもたちも参加して、みこしがにぎやかに繰り出します。子どもからお年寄りまで、みんなが楽しめます。

人々の生活の中から生まれ、地域の大切なものとして根付いてきた祭りの数々。季節感が薄れてきた現代社会の中で、この地域ならではの習慣や文化、絆の深さを味わせてくれる数少ないもの、それが祭ります。

吉見の新年は、吉見観音として知られる安楽寺の初詣で始まり、多くの参拝者でにぎわいます。二月十三日は、毘沙門さまの縁日。「笑門福来」「商売繁盛」と、縁起たるまを求め

EVENTS

TOWN YOSHIMI

Our festivals keep us in close touch with tradition, culture and communal ties within a modern society. Yoshimi has a wide range of festivals throughout the year, from traditional festivals such as fairs at shrines and float parades to newer ones such as the Children's Festival and Sports Festival.

吉見まつり Yoshimi Festival

毎年11月3日に、ふれあい広場と中央公民館などを中心に吉見まつりが開催されます。文化祭や商工祭、健康まつり、福祉まつりなども同時に行われるので、会場は訪れた人びとでいっぱいになります。

大串の毘沙門さま縁日 Ogushi Bijamon-sama Celebration

毎年2月13日、大串の毘沙門堂の境内では縁日が開かれます。食べ物や金魚すくいなどのほか、大小さまざまなダルマが並び露店も出て、吉見に春を呼ぶ祭りです。



町民体育祭 Municipal Sports Festival

毎年10月には、ふれあい広場で町民体育祭が行われます。綱引きや玉入れ、パン喰い競争など、さまざまな種目が行われ、子どもからお年寄りまで、競技や応援にみんなが参加します。

コスモスまつり Cosmos Festival

休耕田を利用した広大なコスモス畑を舞台に、秋にコスモスまつりが開かれます。可憐なコスモスの花々の中に、地元農産物や食べ物の売店などが並び、豆狩りなどのイベントも行われます。



また、六月十八日に吉見の人々は、早朝からお参りにやってきました。吉見観音で開かれる朝観音です。朝早くお参りし、護摩の風にあたり、団子を買って家中で食べると一年中病気になるという言い伝えがあるそうです。夏には、強い日差しに誘われるように街中が熱気に包まれます。東光神社や八坂神社の天王さまでは、勇壮な男たちの掛け声に舞つみこし、威勢よく山車が街を練り歩きます。涼しさが増すころ、豊作感謝を祝う秋祭りが各地で行われますが、そこに決まって登場するのが、ささら獅子舞。軽やかな笛の音に合わせて男獅子、女鹿、宝冠鹿の三体が華麗に舞い踊ります。諏訪神社に奉納される下細谷のささら獅子舞は、寛永五(一六二四)年、奥州に向き伝習してきたもので、このとき奥州に多い鹿踊り系統の鹿頭を持ち帰りましたが、その後、火災で焼失、現在の獅子頭は、天保六(一八三五)年に調製されたもの。この獅子舞に伴う小太刀と棒遣いは子どもたちが演じます。これは、かつて、剣道が盛んだった名残だそうです。

一方、新しい祭りも生まれました。五月の「こどもまつり」は、ちびっこのだじまんやミニ蒸気機関車、人形劇、バザーなどが行われ、大勢の子どもたちでにぎわいます。なかでも、プールで盛大に行われる金魚のつかみどりは、大人気。

秋には、町民体育祭、コスモスまつり、そして吉見まつりが行われます。文化祭、米まつり、健康まつり、福祉まつり、商工祭などが同時に行われる大規模な祭りです。伝統を受け継ぐもの、新しく築いてきたもの、形はさまざまですが、祭りには、忙しい現代社会とともに忘れ去られようとしている、ふるさとへの心が生き続いています。



Special Edition

Foresight for the 21 Century Yoshimi

21世紀のまぢづり

特集

新世紀の先見性は吉見町にある

があふれるまち



みんなで創る、みどりと笑顔

特編
新世紀の先見性は吉見町にある
21世紀のまちづくり



二十一世紀を迎え、

新たな気持ちでまちづくりを進める新井町長が

吉見町の今日、そして明日のまちづくりについて熱く語りました。

真に暮らしやすい、真に住民のための吉見町、がテーマです。

自然の恵みを活かしつつ、
いかに吉見らしい
まちづくりができるか、
ポイントはそこだと思う。

町の安全は治水対策から
私たちの町は、秩父山地の東に位置し、
荒川と市野川にはさまれて、丘陵地帯と
平野部とが広がる、変化に富んだ地形か
らなっています。山や川、沼、木立、草花
があちこちで目にとまり、豊かな自然に
恵まれて、季節の彩りに満ちた町。これが
吉見です。

が、ときに人間たちに対して鋭い牙をむ
くこともあります。私たちの町は、荒
川と市野川という二つの大きな川にはさ
まれておりますので、水害にはたびたび
見舞われてきました。ですから、町の安
全面を考えると、まず対処しなければ
ならないのが、治水対策です。
そうは言っても、なかなか難しい問題
もあります。たとえば荒川は、流されて
くる土砂によって今では河床が、町の平
野部よりも高いという状態ですし、多く

町長インタビュー
吉見町の新世紀を語る

みんなで創る、
みどりと笑顔があふれるまち
を目指します。

Vision For a New Century Yoshimi Urbanization

The Mayor Talks about the New Century Flood control is at the top of the town's safety measures list. Riverbanks are constantly being improved and now we have a plan to build gigantic banks designed to accommodate residential areas. Yoshimi aims to become a "town that stands on its own two feet" through the promotion of industries and disaster prevention. One of my most important wishes to see our town's children grow up in good health supported by a friendly and safe environment.

の上流のダムによって大雨のときには大量の水がいつべんに放流されるといふこともある。それに昔は、雨が降っても、雨は山にしみ込んだり田んぼに溜まったりにして、ゆっくりと流れたものですが、今では自然破壊が仇となって急激に流れできてしまふ。

当然、町では、こうした時代の変化にも対応した治水対策を行っています。毎秒、数十トンもの水を処理することができる大型ポンプを導入したり、県や国といっしょに堤防の改良は常に行っています。堤防に関しては、将来的にはスーパー堤防と申しまして、巨大な堤防を築いて、その上に住宅団地を造ってしまおうというような壮大な計画もあります。

「自立する町」が目標
治水とともに力を入れているのが、土地基盤の整備です。

農業というのは、町の自然を守ってくれるとともに、何と言っても食料を供給



してくれる大切な仕事です。私たちのように戦時中に食料で苦労した経験をもっている、食料の確保というのは、いつの時代でも切実な問題として映ります。また、農地を大規模化することによって大型機械の導入を図り、効率的な農業経営を推進していくことは、雇用問題にも直結し、工場誘致などで雇用を増進させることなども併せて、「自立できる町」という目標につながっていくと、私は思っています。

「ふれあい」あふれる 町づくり やはりそれが基本なんだと 思います。

それから市街地の整備につきましても、まず安全で安心して暮らせるという観念に立ちまして、災害時にはどこであっても消防車が入り込めるような

整備に努めるとともに、道路についても、安心して歩けたり自転車に乗れるように、歩道の整備を進めていきたいと考えています。

農業に関係のある町おこし事業としては、「道の駅」の建設があります。数年後に現在の農産物直売所の場所にオープンする予定ですが、近郊農業の特質を生かして、とれたてで味わいのある野菜や果物を、訪れてくださった首都圏の皆さんにご提供するほか、「道の駅」の裏には観光農園を設けまして、都市部からほんのわずかな距離でありながら豊かな自然に恵まれた吉見町で、家族みんなで太陽の光をいっぱい浴びながら健康的な時間を過ごしていただけたらと、想像をふくらませているところです。

「ふれあい」のある町

吉見は、先ほども申し上げましたとおり、豊かな自然に恵まれた町です。私ども行政に携わる者もそのことについては

深く自覚しておりまして、町ではこの自然を、我々がそれを見て感動を覚えるのと同じように、後の時代に伝えていきたいと考えています。そのため、町の山林のいくつかを買収しまして、自然林のまま残し、野性の動物や鳥、植物と人びととが、あるがままにふれあえるような事業にも取り組んでいます。そしてこの事業は、自然とともに我が町の大切な財産であります。歴史的遺産、たとえば百穴や松山城址をも含めた取り組みでありまして、歴史的財産の点在する百穴や八丁湖周辺の自然林を中心に保護を進めています。

このように吉見で自慢できるものと言えば、まず「自然」「歴史」とつづきますが、それとともに忘れてならないのが、人びとの「ふれあい」ではないでしょうか。

たとえば、秋の「体育祭」では、子どもからお年寄りまで町のすべての人びとが来たのではないかと思えるくらいでして、みんな仲良く走ったり踊ったり飲んだり食べたりと、それはもう大変な賑わいになります。地域のお祭りにしましても、近所の人たちが手作りのおみこしや屋台で参加して、笑顔の子どもたちでいっぱいになります。

人と人がふれあつ中で愛情が生まれ、互いの信頼が築かれてゆく。こうしたことは、まちづくりの基盤となっていくものですし、地方分権の時代にはますます大切なものになってくると思います。

「ふれあい」のあふれる町、吉見。そんなあなたがい環境の中で、子どもたちが自然や歴史にもふれながら、すくすくと伸びていくことができることこそ、私にとってももっとも大切な願いの一つですね。



【特集】
 新世紀の先見性は吉見町にある

21世紀のまちづくり②

第四次吉見町

総合振興計画の概要

将来ビジョン

新時代のまちづくりが今、発進します。

本町では、「第四次吉見町総合振興計画」を策定いたしました。

これまでの町政の成果を踏まえつつ、みどり豊かな吉見のふるさとを守り、
 住みよいまちづくりを推進していくための将来像と施策の大綱を示すとともに、

町政運営を総合的・計画的に行うための指針となるものです。

したがって、町民に対してはまちのめざす方向を明らかにして、

積極的な参加と協力を求めていくものであり、

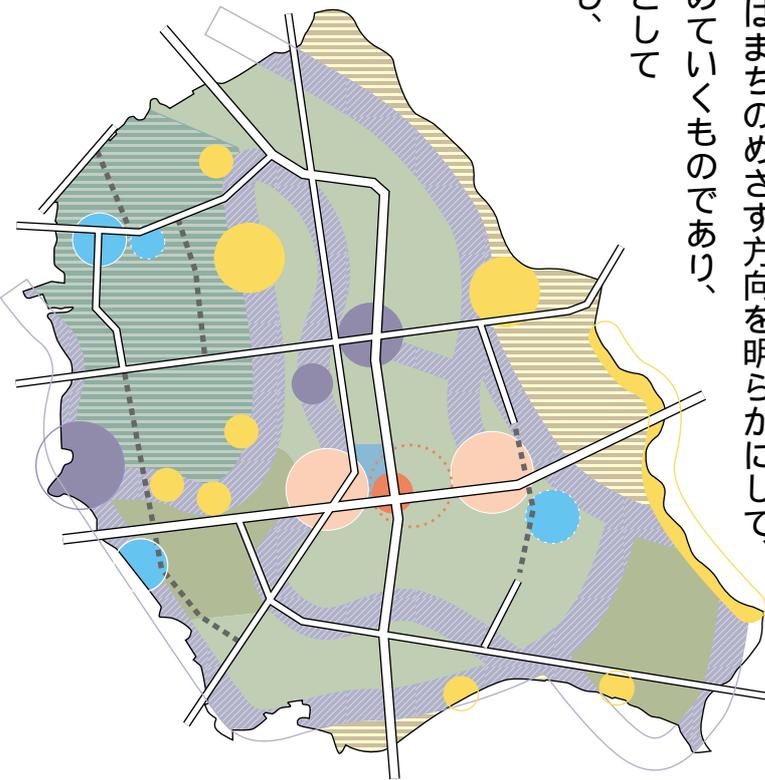
国・県に対しては吉見町として

期待する施策を明らかにし、

その実現を望むものです。



北吉見



- | | | |
|--------------------|------------|--------|
| 工業系土地利用 | 文化・まちおこし拠点 | 主要幹線道路 |
| スポーツ・レクリエーション系土地利用 | 住居系土地利用 | 幹線道路 |
| スポーツ・レクリエーション拠点地区 | 新市街地 | 計画道路 |
| 産業拠点 | 工業振興・整備地域 | |



南吉見



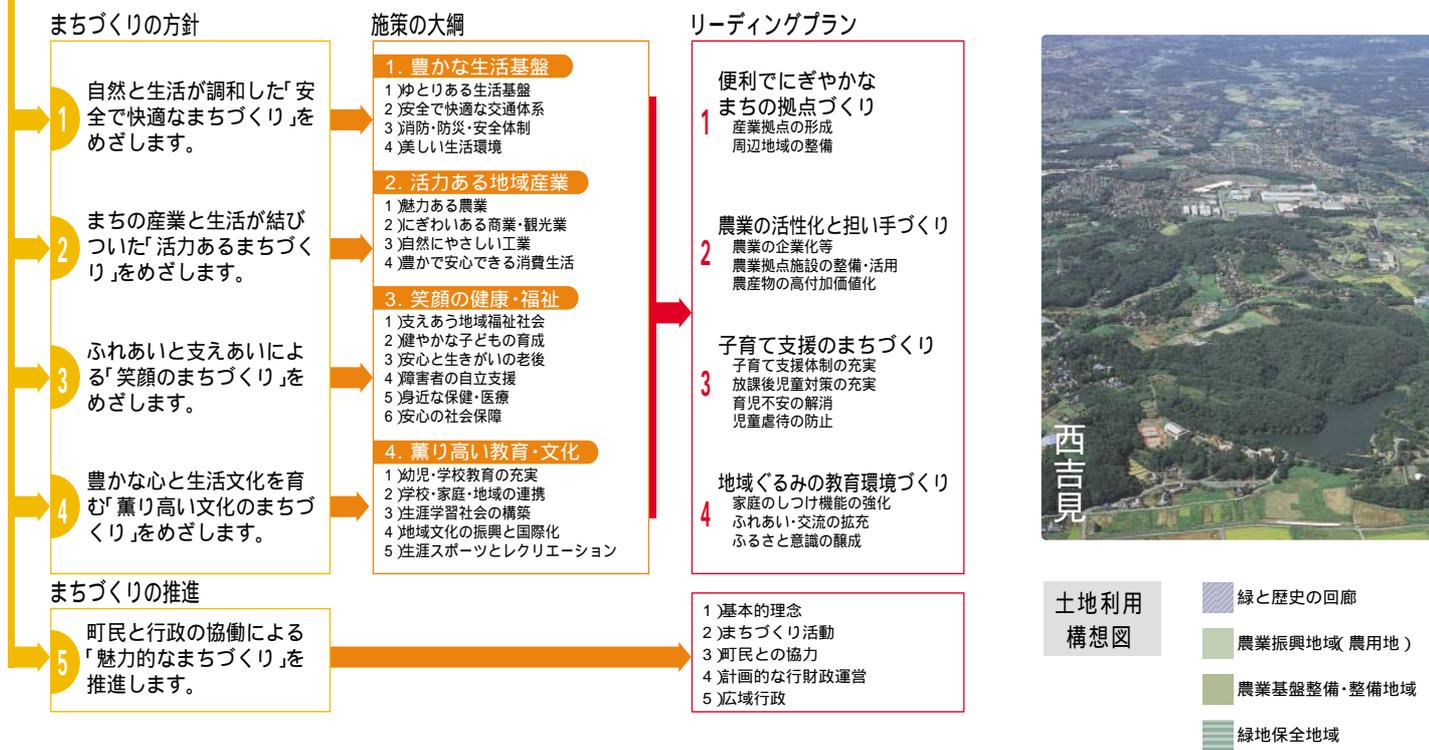
東吉見

吉見町は、自然に恵まれた農業の盛んなまちとして発展してきました。肥沃な土地は、稲作に適しているほか、近年では、いちごの栽培が盛んで、町の特産品として広く知られたるようになっていきます。また、町内には、先人たちの足跡をうかがい知ることができる史跡・名所が多数あり、こうした中から、まちの特色ある風土や文化、暮らしが生まれてきました。さて、二十一世紀を迎えた今、吉見町では、まちづくりの主役は「町民」であるという認識のもとに、まちの将来像を「みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち」と掲げました。そして、このたび策定した第四次吉見町総合振興計画では、目標年次を平成二十二年とし、町に住む人々が生活に安らぎと楽しさを感じ、心からふるさとを誇りに思えるまちを築いていくことを目指しています。

「みんなで創る」は、二十一世紀の吉見町のまちづくりを町民と行政が一体となって推進していくことを意味します。町民一人ひとりの創意を町政運営に反映していくとともに、住民の自発的活動をいかに促すようまちづくりに努めていきます。

また、「みどりと笑顔があふれるまち」は、丘陵や田園風景など、吉見町の豊かな自然を保全・活用しながら、うるおいとあたたかみのある生活環境を形成していくことを示しています。地域でのふれあいを通して、子どもからお年寄りまでが安心と生きがいを感じられる笑顔あふれる元気なまちづくりを進めていきます。

将来像 みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち



Yoshimi has prospered and developed a unique culture largely influenced and nourished by the beauty of our natural surroundings. Now Yoshimi aims to “become a town full of greenery and smiles with the help of local residents.” The administration and our residents strive to create a living environment with nature, safety, comfort, vitality, support, smiles and culture, where every one, regardless of age, can lead a life of security and fulfillment.

まちづくりの基本方針としては、町の将来像や吉見町県民憲章の基本理念を踏まえ、以下の四つの柱を設定しました。

自然と生活が調和した「安全で快適なまちづくり」をめざします。

まちの産業と生活が結びついた「活力あるまちづくり」をめざします。

ふれあいと支えあいによる「笑顔のまちづくり」をめざします。

豊かな心と生活文化を育む「薫り高い文化のまちづくり」をめざします。

今後とも吉見町では、町民とともに歩み町民に開かれ、充実した町政を進めるために、積極的な施策の推進に全力で取り組んでいきます。

Life Foundation

Report of Greenery and Smiles Town みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち

生活基盤

「安全で快適なまちづくり」をめざします。
自然と生活が調和した

安全で快適なまちづくりを進めます。

a.市街地の整備 Town street maintenance

自然と共生した憩いと安らぎのある生活環境を形成していくため、緑の保全や公園の整備などを含めた、自然景観と調和した美しく快適な住宅地の整備を進めています。

b.ごみ処理 Garbage treatment

地域の人びととの協力によるごみ管理を推進し、ごみ分別方法を徹底するとともに、生ごみの堆肥化などによるごみの減量化や、ごみ資源の再利用も推進しています。

c.道路の整備 Road maintenance

少子・高齢社会の進行にあわせて、歩行者からドライバーにいたるまで安全で快適な道路利用ができるように、歩道の整備や交差点の改良などを進め、人にやさしい道路網の整備を目指しています。

d.i.公園の整備 Park maintenance

ふれあい広場をまちのふれあい創造のシンボルと位置づけるとともに、子どもからお年寄りまでが、ふれあいと憩いを感じられるような、身近で利用しやすい公園の整備を行っています。

e.防災情報ネットワークの整備

Calamity Information Network maintenance

地震や水害などの災害時に正確かつ迅速に情報を伝達するために、防災行政無線の難聴地区の解消に努めるほか、通信の多重化を図るため、衛星を利用した「防災情報ネットワーク」の整備を行っています。

f.g.消防体制の強化

Improved firefighting organization

消防力を強化するため、消化栓・防火水槽などの消防施設の充実・整備を進めるとともに、定期的な操法・放水訓練の実施を行い、消防団員の確保に努めています。

h.公共下水道の整備

Waterworks & sewer system maintenance

東部市街化区域及び吉見中継ポンプ場周辺区域については、下水道整備を推進。東部市街化区域は、土地区画整理事業にともない整備に努め、西部既存住宅団地についても整備を進めています。



The town strives to make the most of its beautiful landscapes with affluent greenery, hills, paddy fields and trees in residential areas, in order to create a living environment that provides residents with peacefulness and relaxation. The town also strives to ensure the safety and comfort of our residents and to equip itself with capabilities necessary for the promotion of industrial activities and friendship.



丘陵や田園風景といった豊かな自然景観を活かしながら、一人ひとりが安全と快適さを実感でき、人々の交流や産業活動を促進するための機能が整備されたまちをめざします。また、すべての町民が緑と生活基盤との調和のなかで、憩いと安らぎを感じることのできるまちづくりを進めます。

吉見町は、吉見丘陵や水田、集落の屋敷林など、みどり豊かな自然景観に恵まれています。こうした町が持つ財産を活かしながら、自然と共生した憩いと安らぎ、ゆとりのある生活環境を形成していく一方で、吉見町は、一人ひとりが安全と快適さを実感し、人々の交流や産業活動を促進するための機能が整備されたま

ちを目指します。

快適な住環境の整ったまちづくりを進めるために、積極的に取り組んでいるのが、東部・中央住宅市街地の整備です。東部市街地は、良好な住宅地形成のため、策定された地区計画に基づきながら、土地区画整理事業を進めていきます。また町の課題ともいえる中央市街地において

は、より利便性の高い町民生活を目的に、商業、農業、観光業の活性化や人々の交流の中心としての産業拠点の形成に取り組んでいきます。さらに、人にやさしい道路整備や人々が集い憩えるオープンスペースをつくるなど、まちの中心部としてふさわしい居住環境の整備に努めます。すべての住民にとって、「住みよいまち」を実現するためには、安全で快適な交通体系が不可欠です。町では、公共輸送力を強化し、交通の利便性を確保するほか、町内各道路のネットワークの強化や道路環境を整備することで、町民生活のより機能的な活動を支えています。

一方、社会のさまざまな危険から生活を守り、町民が安心して暮らせるために、

消防防災・救急体制の強化、交通安全の確保、地域ぐるみでの防犯対策の充実に取り組んでいます。町の防災機能の強化を図るとともに、防災拠点の整備や避難連絡体制の確立に努め、災害に強いまちづくりを進めます。

住み心地よく、美しい生活環境をつくるために、地域の美化運動を推進するとともに、水質汚濁などの公害防止に努め、ごみの減量化やごみ処理体制の強化を図ります。また、省エネルギーやリサイクル運動を進めるほか、下水道や小型合併浄化槽の整備を図るなど、自然環境の保全に配慮した地域づくりを目指します。

Industry

Report of Greenery and Smiles Town みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち

地域産業

「まちの産業と生活が結びついた
活力あるまちづくり」をめざします。

活力あるまちづくりを支えます。



a-c. 高収益特産物の確立

Growth of profitable produce

道路沿線いちご直売農家の組織化をはじめ、いちごの品種改良による品質向上や高付加価値化を推進し、いちごの産地としての維持・活性化を図るほか、いちご以外の農産物についても、特産物化に取り組んでいます。

d-g. 活力ある地域農業づくり

Dynamic agricultural revitalization

食料の生産機能ばかりでなく、吉見らしさを表現する農村景観や緑地の保全機能などの面からも農地の活用を進め、農業生産の効率化と担い手の育成や都市近郊農業への展開にも取り組んでいます。

h. 自然にやさしい工業

Environmentally friendly industries

自然にやさしく活力ある産業振興のため、無公害型企業の誘致を図り、まち全体の緑化事業の一環として工場緑化を進めるほか、住工混在を解消するためのミニ工業団地の整備など、生産環境の整備を促進します。

i. にぎわいある商業・観光業

Active commerce

商業者の自助努力を促すとともに、集客力のある魅力的な商業の集積を図って、にぎやかで活力ある商業拠点づくりを推進し、イベントや特産物のPRなどとあわせて、点在する観光拠点施設の整備とネットワーク化を進めます。

Yoshimi has long flourished as an agricultural town since ancient times. Local agriculture, however, must now deal with issues such as a lack of successors. Yoshimi takes every necessary measure to promote farming. For the activation of its commerce and tourism, the town plans to provide efficient tourist routes in order to attract visitors throughout the year. Yoshimi strives to promote local industry in harmony with the preservation of our natural environment.



まちの地域特性を活かして発展してきた農業を育成するとともに、
 商工・観光業の振興を図ります。また、就業意欲のある人たちが、
 安心して働くことのできる環境の整備を進め、すべての町民が生き
 生きとした暮らしを実感できる、活力ある地域づくりに努めます。

自然に恵まれた吉見町は、農業が盛んなまちとして発展してきました。現在では、都市化の影響で農家数の減少や農業者の高齢化による後継者不足など、農業を取り巻く現状は厳しくなっています。しかしながら、うるおいのある田園風景を後世に伝えていくのが、われわれの役目であると町では考えます。

吉見町では、農業者が生きがいと誇りを持てるような魅力ある環境を整えるために、農業の企業化や農業拠点施設の整備と活用、後継者の確保、農産物の高付加価値化など、農業基盤の整備を進め、産業としての自立を推進します。また、都市近郊農業を展開し、新鮮で安全な農産物の地元地域への供給や施設園芸にお

ける品質向上とブランド化など、全国へ向けてのPRを進めるほか、新規就農者の確保を含めたふれあい農業や観光農園の促進も図っていきます。

一方、にぎわいのある商業・観光業を展開するためにも、点在する観光拠点施設の整備やネットワーク化を進め、まつりやイベント、まちの特産物等との結びつきを図ることが重要となっています。そのため、四季を通じて、人々が集い憩える交流拠点や回遊性の高い観光ルートを整備していきます。

工業においては、自然にやさしい工業を目指し、無公害型企業の誘致を図る一方、住工混在を解消するため、ミニ工業団地の整備を検討します。また、人々が

意欲を持って働くことができるような労働環境の整備を行うとともに、まち全体の緑化事業の一環として、工場緑化を進めていきます。

近年、サービスや販売方法が多様化し、悪質商法による消費者被害が、問題となっています。町では消費者を保護するとともに、町民が安心して豊かな消費生活を営めるよう、消費者の自立を促進するほか、消費生活情報の提供や消費生活相談等を積極的に働きかけます。また、すべての町民が生きいきとした暮らしを実現できるために、まちの産業と生活が結びついた活力あるまちづくりに努めていきます。

Health & Welfare

Report of Greenery and Smiles Town みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち

健康・福祉

「ふれあいと支えあい」による
「笑顔のまちづくり」をめざします。

笑顔のまちづくりを図ります。



a-b. 母子保健の推進

Promotion of mother & child health

母性や乳幼児の健康の保持増進を積極的に推進するため、各種検診や予防接種の実施による疾病の予防を図るとともに、妊産婦・乳幼児の疾病、発育・育児などの相談や指導を行っています。

c-d. 幼児教育の充実

Substantial infant education

遊びを中心とした集団生活を通して、基本的な生活習慣やしつけ、社会性を身につけさせるなど、幼児教育の充実を図るため、幼稚園就園を奨励しています。

e-f. 保育の充実

Substantial nursery school facilities

核家族や共働き世帯の増加などにより、乳児期から保育所への入所を希望するなど、多様な保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てを地域で支えていくための育児環境づくりに取り組んでいます。

g. 福祉ボランティアの養成

Training for welfare volunteers

障害者の日常生活を支える福祉ボランティアを養成し、障害者の社会参加機会の拡充に努め、障害及び障害者に対する正しい認識や理解を広めるため、啓発活動を推進します。

h-i. 老人福祉の推進

Promotion of welfare services for the elderly

お年寄りが住み慣れた地域で生きがいと誇りをもち、豊かな経験と知識・技術を生かせるような環境を整えるとともに、生涯学習や社会参加の機会を拡充し、児童やボランティアをはじめとした交流を促進しています。



In the face of a seriously declining birth rate and the aging of our population, Yoshimi strives to take measures that encourage closer connections among health, medical and welfare systems in order to ensure good health and happiness for each and every resident. The town supports the elderly, parents with small children, and the handicapped by offering attentive services and providing the best possible living environment.



すべての町民が、住み慣れた地域社会や家庭のなかで、人々とのふれあいや支えあいを感じながら、健やかで安心して暮らせるまちづくりをめざします。そのため、保健・医療・福祉の連携のもと、日々の生活を支える体制の充実を図るとともに、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。

本格的な少子・高齢社会が進展する中、一人ひとりが生涯を通じて健康で生きいきと暮らせる環境づくりは、多くの人々の願いです。吉見町では、すべての町民が住み慣れた地域社会や家庭の中で人とのふれあいや支えあいを感じながら生活できるように、保健・医療・福祉の連携による総合的な施策を推進しています。

たとえば、町の地域福祉を推進する一環として、年一回の吉見まつりにあわせて「福祉まつり」を開催。さらに、全小学校を福祉協力校に指定し、老人ホームを訪問するなど地域の高齢者との交流を積極的に行います。地域における福祉意識の高揚と福祉サービスの充実を図りながら、すべての町民が生きがいと誇りを

持ち、楽しく安心して老後を過ごすことができる環境づくりに努めています。また、健康づくりと疾病予防に向けて、保健・医療や福祉団体、ボランティアグループとの協力を進めるなど、より多様なニーズに対応できる地域福祉活動を展開します。

安心して子どもを産み、育てられるまちづくりは必至です。健やかな子どもの育成を願い、子育て相談機能の拡充や教育機関との連携をはじめ、育児ネットワークを形成するなど、母親同士のつながりを広げることで、育児不安の解消や児童虐待の防止などを図っていきます。

一方、障害を持つ人々が自立し、その家族が安心して生活できるように、町で

は、相談・指導体制の整備を進めています。今後は、さらに、きめ細かな福祉サービスや授産・生活訓練の充実にも努めるほか、バリアフリーを促進し、文化・スポーツ活動などへの参加の機会を拡充していきます。

町民一人ひとりが生涯にわたり健康で充実した生活を送るためには、健康増進事業や疾病予防活動が大事です。町では保健センターを中心に活動の充実を図るとともに、地域保健医療システムの整備を進めます。また、安心の社会保障として、介護保険事業の適正な運営に努めます。

Education & Culture

Report of Greenery and Smiles Town みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち

教育・文化

豊かな心と生活文化を育む
「薫り高い文化のまちづくり」をめざします。

薫り高い文化のまちづくりに
努めます。



a. 図書館活動の充実

Substantial library services

子どもや大人がより多くの本と出会い、まちの読書人口がさらに拡大するように資料の収集整備に努め、おはなし会や児童文化講座、成人向け講座など魅力ある事業を展開して、来館者の拡大を図っています。

b.c. 生涯学習活動の推進

Promotion of life-long learning

人びとの多様な学習ニーズを的確に把握し、各人のライフステージにあった学習機会の拡充を図る一方で、学習指導者の育成・発掘や既存関連施設の整備と利用促進に取り組んでいます。

d-i. 学校教育の充実

Substantial school education programs

(d-f. 中学校 g-i. 小学校)

子どもたち一人ひとりの個性や能力を伸ばすとともに、自ら考え行動できる主体性や社会の変化に対応できる柔軟性を育むため、創意と工夫に満ちた教育を推進。まちの自然環境を生かした体験学習や、地域への交流を通して、子どもたちの心豊かな人間性を育む教育にも取り組んでいます。

Helping our children learn to think and act on their own in order to cope with a rapidly changing modern society, Yoshimi promotes creative education in cooperation with families and communities. The town also provides its residents who are eager to learn and improve themselves with opportunities and facilities for continuous learning, enjoying hobbies, participating in volunteer activities and exercising.



次代を担う子どもたちが、人々とのふれあいや、地域での体験を通じて心豊かな人間性を培えるよう、家庭・学校・地域の連携を図り、主体性と思いやりを育む心の教育を推進します。また、町民一人ひとりの自ら学ぶ意欲を大切にし、生涯にわたって学べる環境を整備します。

次代を担う子どもたちが、健やかに心身ともに調和のとれた人間形成を育むためには、薰り高い教育・文化のまちづくりを構築していくことが大切です。吉見町では、子どもたち一人ひとりの個性や能力を伸ばすとともに、自ら考え、行動できる主体性や、社会の変化に対応できる柔軟性を身につけることを重点目標に、創

意と工夫に満ちた教育を推進しています。人々とのふれあいや地域での体験を重視する等、心豊かな人間性が培えるよう、家庭・学校・地域が連携して積極的に取り組んでいます。また、家庭同士が助け合い、社会全体で子育てをしていくネットワークづくりも進めています。学校教育施設の整備を進める一方で、いじめや不

登校等、児童生徒のさまざまな悩みごとに対応する教育相談室を拡充させるほか、カウンセリング研修会を実施する等、教職員の相談・指導技能の向上も図っています。

近年、高齢化の進行や余暇時間の増大により、自発的な学習や趣味、文化、ボランティア活動等、生きがいを求める人々が増えています。町では、町民の自ら学ぶ意欲を大切にし、多様なニーズに対応できるためにも、学習機会の拡充や情報提供、拠点となる社会教育施設の整備充実と利用の促進に努めていくことが必要となっています。また、国際化が進む中、子どもを通じての国際・国内交流の推進を検討していきます。

吉見町には、百穴など学術的に貴重な歴史遺産や伝統芸能等がたくさんあります。身近な文化を見直し、保存・活用することで、個性豊かな地域文化を創造することができそうです。町の人々が優れた芸術に接する機会を拡充し、自主的な文化活動を促進する等、地域文化の振興を図っていきます。

健康で明るい暮らしを営むために、欠かせないのが、スポーツ・レクリエーション活動です。町民が、いつでも、体力・健康づくりができるよう、情報提供や施設整備を進めるとともに、身近で気軽に親しめる新しいスポーツを提案します。

Administration & Assembly

Report of Green and Smile Town みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち

Yoshimi aims to be a town where each and every resident can lead a safe and fulfilled life. The town strives to respond to the Various needs of the people, it seeks their participation and cooperation, and provides all necessary information. The town assembly deliberates and makes decisions regarding basic policies based on the voice of the citizens in its quarterly ordinary sessions and extraordinary sessions.

行政・議会

町民と行政の協働による
「魅力的なまちづくり」を推進します。

魅力的なまちづくりに
取り組みます。



a. 三役及び教育長
The four key executives

左から 教育長 小野川秀雄
助 役 青山洋三
町 長 新井敬三
収入役 芝崎敬明



b. 庁舎窓口
A window at the town hall



c. 議長・副議長
Assembly chairman,
Assembly vice-chairman
左から 議長 安野敬雄
副議長 内山幸雄



d. 議会
Town assembly

吉見町は、町民・行政が一体となり、まちの特徴を生かしながら、町民一人ひとりが安心して生きがいを持って暮らすことのできるまちづくりを目指しています。複雑・多様化する行政ニーズに適切に対応するためにも、また、町民と行政とが協力しあい、よりよいまちづくりを推進するためにも、町民参加に対応した行政システムを整備し、的確な情報公開・収集体制の充実を図ることが重要です。このように、地域に密着した情報交流・

共有化を進めると同時に、町民が利用しやすい庁舎の整備・改修等に取り組んでいます。また、健全な財政を基調に、事業の見直しによる経費の削減・合理化を推進するほか、町税収入の安定を図る等、積極的に財源を確保し、計画的かつ効果的な行政の運営を進めています。町民と行政を結ぶパイプ役としての役割を担っているのが、議会です。町民の声を反映させながら、町の基本的方向を

決定していきます。吉見町議会は、町民から選ばれた十九名の議員で構成され、年四回の定例議会をはじめ、必要に応じて臨時議会を開き、予算・条例案など、熱心に審議しています。議案は、本会議で決定されますが、総務、建設経済、文教厚生の中の三つの常任委員会、専門的な検討がされた上で、詳しく審議が行われています。

【特集】ビジュアル版

吉見町 の 20世紀

Visualized 20 Century's
History in Yoshimi

東西南北四つの吉見村が編成されたのは明治二十二年。

その後様々な経緯を経て町制施行から三十年が経過しました。

明治から大正・昭和、そして平成へと時代は移り変わり、

遂に二十一世紀を迎えました。

いま華やかな現代社会のなかに生きる私たちが、

激動の二十世紀を振り返ってみることは、

時代の大きな節目を迎えようとしている今、

やがて未来への輝かしい発展を望むためにも

大切なことではないでしょうか。

1867.....18945

明治から大正・昭和、そして終戦。まちは激動の時代を駆け抜けました。

- 1867 慶応3 十二月九日王政復古の号令
- 1868 明治元 世間不穩につき兵賊見回り自衛団のことについて郡中申合せ
郡中張札一件につき四十三力村議定
横見郡四十三力村より治安維持について官軍に願出る
大風雨三度に及び立毛再復竟来ない旨の届出
原照胤横見郡四十三力村総代と自称し民部省に治水の願出をする
- 1869 東京遣都
- 1870 横見郡四十三力村より荒川総合治水の請願を佐倉藩・古河藩・浦和県へ提出
- 1871 市の川大改修阻止の四十三力村よりの嘆願
四民平等の願出
大和田村より鎮守祭の手踊許可願提出
- 1872 東京へ早船開業願
全国徴兵の詔・学制頒布
市の川台山河岸復活願
- 1873 横見郡県会議員候補者協定成る
- 1874 学校資本金賦課について群内に不穩の動きがある
- 1878 横見郡有志等により国立第八十五銀行設立
- 1879 北下砂外八力村より地租改正について嘆願書提出
- 1884 秩父暴動に加盟しないことの誓約書調印
- 1885 農民蜂起についての達し
- 1887 中曾根村の消防組編成規約できる
- 1889 横見郡四十三力村は東西南北の四つの吉見村となる（市町村制施行）
- 1892 衆議院議員選挙にあたり二区より高田早苗・福田久松当選
- 1893 北吉見村より財政困難を都長に訴える

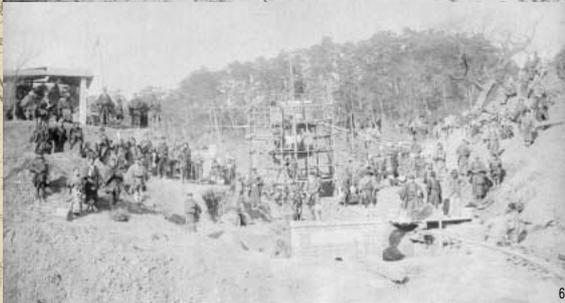


江戸時代以降、概ね四十三力村に分かれていた横見郡では、大政奉還や王政復古などの大変革を経た後、明治二十二年（一八八九）になると市町村制の施行によって、北吉見・東吉見・南吉見・西吉見の4力村が誕生しました。さらに同二十九年には横見郡が廃止されて、比企郡へと編入されましたが、四力村には横見郡の区域がほぼそのままの形で残りました。旧郡域がそっくりそのまま一つの市町村になっているのは本県では唯一で、それだけに吉見には昔からの歴史がよく受け継がれています。その後、これらの村は、第二次世界大戦後に施行された町村合併促進法による四力村の合併に至るまで、60年以上の間、その姿を存続させたのでした。

この地域は昔から県内有数の穀倉地帯として知られてきましたが、その反面、恵まれた水利と平坦な土地はたびたび水害を招くことにもなり、明治以降にも河川の改修事業

- 1 3 明治20年ごろの吉見百穴
 - 4 明治20年ごろの農耕の様子
 - 5 明治20年ごろの農家の土間風景
 - 6 明治37年11月の大沼樋管工事の様子
 - 7 発掘資料を保存する建物の建築風景
 - 8 昭和初期の子どもたちの遠足風景
 - 9 明治28年当時の吉見の地図
- (1～8写真提供：大澤重夫氏)

| | | |
|------|----|--------------------------|
| 1894 | 27 | 日清戦争はじまる |
| 1898 | 31 | 四力村とも有志寄付金を徴兵家族扶助料として下付 |
| 1899 | 32 | 荒川治水につき関係町村長より県会議長へ請願 |
| 1904 | 37 | 秋原汎愛農業改良功労者として知事より表彰 |
| 1905 | 38 | 日露戦争はじまる |
| 1907 | 40 | 労働力・牛馬肥料の不足と悪天候により凶作 |
| 1910 | 43 | 北吉見村関根平吉農業改良功労者として知事表彰 |
| 1911 | 44 | 大洪水 |
| 1912 | 44 | 南吉見村をはじめ各村に在郷軍人分会設立 |
| 1915 | 4 | 吉見堤碑なる(大里郡小泉) |
| 1919 | 8 | 特別大演習で吉見各村に兵士宿営 |
| 1923 | 12 | この頃吉見各村に信用組合誕生 |
| 1926 | 15 | 北吉見村農会会則なる |
| 1931 | 15 | 「田中光太郎治水日記」 |
| 1937 | 12 | 満州事変起こる |
| 1940 | 15 | 昭和 国民精神総動員北吉見村国民貯蓄奨励要項なる |
| 1941 | 16 | 市の川改修記念碑建立 |
| 1943 | 18 | 吉見各村に防空訓練実施要項できる |
| 1945 | 20 | 米英蘭に宣戦布告 |
| 1945 | 20 | 終戦 |



After the Edo period, there were 43 villages in Yoshimi County. In 1889, after the Return of Political Rule to the Emperor and municipality ordinances were enacted, 4 new villages were established in Yoshimi. Yoshimi County was restructured and the name was changed to Hiki County in 1896. Prior to becoming a town, Yoshimi experienced the diffusion of lamps, a growth of commercial establishments, the birth of a credit association and many wars.

が数多く行われました。
明治から大正にかけては、ランプの普及、新暦の施行、商店の増加、信用組合の誕生など、人びとの生活が次第に向上してゆく一方で、日清戦争、日露戦争、日中戦争などの戦争がつづき、やがては太平洋戦争へと突入していきま

吉見町の20世紀

Visualized 20 Century's History in Yoshimi

独自のまちづくりで町は大きく変貌していきましました。

1946.....2001

| | | |
|------|----|-------------------------|
| 1973 | 48 | 中央公民館完成 |
| 1972 | 47 | 町制施行 |
| 1971 | 46 | 農業構造改善センターが完成 |
| 1970 | 45 | 給食センター完成 |
| 1969 | 44 | 黒岩横穴墓群所在調査はじまる |
| 1968 | 43 | 山ノ下保育園が開園 |
| 1967 | 42 | 有線放送と電話を複合した新方式の電話がひかれる |
| 1966 | 41 | 町内各小中学校にプールが完成 |
| 1965 | 40 | 御成橋と徒歩橋が開通 |
| 1964 | 39 | 合併十周年 |
| 1963 | 38 | 西地区の丘陵地で宅地造成が始まる |
| 1962 | 37 | 農業機械の大型化が進む |
| 1961 | 36 | 吉見百六が町の管理になる |
| 1960 | 35 | 消防自動車を購入 |
| 1959 | 34 | 東第一小学校で完全給食を実施 |
| 1958 | 33 | 診療所を開設 |
| 1957 | 32 | 統合中学校を下細谷に建設 |
| 1956 | 31 | 放射線道路工事着工 |
| 1955 | 30 | 下細谷四一一番地に役場庁舎完成 |
| 1954 | 29 | 東西南北の四力村が合併して吉見村となる |
| 1946 | 21 | 自作農創設特別措置法公布 |



- 1 昭和30年、下細谷に役場庁舎が完成し、新庁舎での仕事が始まりました。
- 2 昭和33年、下細谷に統合中学校が開校しました。
- 3 昭和34年、東第一小学校で吉見初の完全給食が開始されました。
- 4 昭和35年には、いちごの栽培技術が進み、ビニールトンネルが使われ始めました。
- 5 昭和38年、西地区の宅地造成が始まりました。



- 6 昭和41年、吉見の各小中学校にプールが完成しました。
- 7 昭和42年、東松山・中曽根間にバスが開通しました。
- 8 昭和42年、農集電話が開通しました。
- 9 昭和43年、上水道事業に着手しました。
- 10 昭和47年、町制が施行されました。



- 11 昭和57年、老人福祉センター荒川荘が、昭和59年には埼玉中部環境センターが完成しました。
- 12 合併や町制施行を記念して町勢要覧が発行されました。

終戦後の混乱期がようやく落ち着いてきた昭和二十八年（一九五三）、独占的中央集権体制を排し、地方分権を主体とした民主的・平和的な新秩序建設を進めるために、町村合併促進法が公布されました。東西南北の吉見四力村では、これを受け、合併に合意。翌二十九年七月一日をもって、四力村が合併した吉見村が誕生しました。

昭和三十年になると、吉見でいちごが初めて栽培されましたが、この地はいちごの生育に最適であったために、その後、多くの農家に普及。長きにわたっていちごは、吉見を代表する農産物の地位を占めつづけ、現在でも大きな人気を誇っています。

四十年代には、それまで純農村地帯であった吉見に、多くの大工場が進出して、農村の中に次第に都市的・近代的景観も見られるようになりました。そして、昭和四十七年十一月三日、吉見は町制を施行するに至りました。

吉見町ガイドマップ



東松山消防署吉見分署



埼玉中部環境センター



保健センター



横見排水機場



農業構造改善センター



町立図書館



東野ふれあいセンター



中央公民館



町民体育館



南公民館



老人福祉センター荒川荘



北公民館



東公民館



西公民館



Yoshimi Guide Map



吉見町役場



発行

吉見町役場
〒355-0192 埼玉県比企郡吉見町大字下細谷411番地
TEL0493-54-1511
<http://www.town.yoshimi.saitama.jp/>

発行年月

平成14年8月

編集

吉見町役場総務課

制作・印刷

朝日印刷工業株式会社



この印刷物は古紙の配合100%の再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。



町の木 / けやき



町の花 / きく



町の鳥 / ひばり